第5回新市将来構想策定小委員会

議　事　録

第5回新市将来構想策定小委員会会議録

1　会議を開催した日時及び場所

・日　　時　　平成１５年6月１１日（水）　　午後4時

・場　　所　　長岡市役所大会議室

2　会議出席委員の氏名

豊口　　協	二澤　和夫	山本　俊一	外山　康男
佐々木保男	熊倉　幸男	米持　昭次	坂牧宇一郎
長谷川　孝	村上　雅紀	北村　　公	池田　守明
石黒　貞夫	小池　　進	高野　徳義	野田　幹男

以上　１６名

（欠席委員の氏名）

朝日　由香

以上　　1名

3　議題及び議事の要旨

別紙のとおり

長岡地域任意合併協議会新市将来構想策定小委員会

◎事務局（北谷）

定刻となりましたので、ただいまより長岡地域任意合併協議会第５回の新市将来構想策定小委員会を開催いたします。

なお、本日の小委員会は朝日委員がご都合により欠席となっておりますが、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、小委員会規程により会議が成立していることをご報告いたします。

次に、本日の議事に係る資料の確認をお願いいたします。事前に配付したもの、また本日追加したものがありますので、ご確認をお願いします。会議資料としては会議次第、資料１、資料２、資料３及び資料４と書いてある資料を配付しました。なお、会議次第、資料１、資料２につきましては事前に送付させていただいておりますが、資料３、資料４については本日ご用意させていただいております。また、資料１につきましては、恐れ入りますが、本日お配りしている資料に差しかえをお願い申し上げます。

それでは、お手元の次第に従いまして順次進めさせていただきたいと思います。なお、恐れ入りますが、ご発言の際はマイクを使われますようお願いします。

それでは、議事に入ります。この後の進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

◎委員長（豊口　協）

どうも失礼しました。マイクのバッテリーがなくなっておりました。それでは、これから議事を進行させていただきます。

今日は、お手元に既にお配りしてありますように次第としましては最初に報告事項、それからご意見をいただくという二つの大きな形で構成をされております。既に10日ですか、新しい市の名称も決まったようでございますし、合併する方式も決まったようでございます。ひとつ新しい時代の第一歩が既に踏み出されたというふうな気もいたします。それだけで今日はそういった二つの既に決まった事項をベースにいたしまして、さらに先への飛躍をひとついろんな形でご検討いただいて、まとめていきたいというふうに考えております。

今日は、最初に構成市町村長、それから議会代表者の方々にヒアリングをしていただいております。その調査結果につきまして、事務局の方からご報告をお願いしたいと思います。

◎事務局（竹見）

それでは、事務局からご報告を申し上げます。恐縮ですが、座ってご説明いたします。

資料ナンバー１、長岡地域新市将来構想に関わる構成市町村長・議会代表者ヒアリング調査結果の資料をごらんください。こちらのヒアリングにつきましては、コンサルタントが直接伺いまして、約１時間程度取材を行いました。

１ページ目ですけれども、取材対象者と取材日時ということで掲載をしております。左から地域、氏

名、役職、それから取材日時、５月22日から５月29日にかけて取材を行いました。

２ページ目以降は、内容別に取材内容を取りまとめております。

内容につきましては、実際に取材に伺いましたコンサルタントの方からご説明を申し上げます。

◎コンサルタント（岡村）

お疲れさまです。建設技術研究所・ＵＦＪ総研共同体の岡村でございます。説明にあたりまして座らせていただきます。

資料の２ページからでございますが、このたび５月の22日から29日と長い期間にわたりまして取材にご協力いただきましてありがとうございました。要点を２ページから整理しております。取材の質問項目として、大きくは三つ事前にご提出いたしました。地域の現状、課題、地域資源について、それから合併に当たっての期待、懸念について、それから新しい長岡地域の今後のあり方について、こういう視点で提出いたしまして、それに沿ってお話をいただきました。

要点をかいつまんで説明いたします。まず、１番目の現状、課題、特性、資源についてですが、これは当然各市町村の中身ですので、項目を市町村ごと分けて整理をして、４ページまで続いておりますが、いろいろ地理的な条件のこと、それから福祉や産業にわたること、それから以前これまでの産業からどういうふうに新しくこのたび変わってきているかと、そういうお話をいただきながら、それから地域の気象条件、特に冬期の積雪の問題、そういう問題、それから地域資源としての天然ガスの問題、さまざまな問題を具体的にお話をいただきました。

また、５ページからは今後への期待と懸念ということで引き続きお話をいただきまして、これは各市町村ごとには分けてございませんが、７ページまでの３ページでまとめております。この１項目１項目が一つ一つ大切なお話でございますので、ここでポイントというのはなかなか難しいんですが、全般的に前向きで地域全体にわたるようなお話ということで幾つかご紹介いたします。５ページの一番上でございますが、合併のメリットということで、新しく情報発信がしやすくなり、地域活性化へつながる点ということをお話しいただいています。それから、５点目に周辺部の豊富な自然を生かしたフィールドミュージアムづくりというような自然とのかかわりの問題。それから、下から10項目めぐらいになりますが、緩やかな合併を期待すると。この期間に不安を解消できればというようなご意見。それから、一番下ですが、８市町村の独自性を大切にし、地域性を維持継続していくことが必要であるというようなお話です。次の６ページの一番上ですが、今回の合併では住民の意向を尊重したいと。すべてが良い方向にならないし、我慢すべきところもあるが、首長、議会、住民の意思を統一して合併に臨みたいというようなお話です。７ページの方ですが、一番最後の項目です。長い時間かけて培ってきた地域コミュニティーや独自性を大切にしていくべきであるというようなご意見でございました。ほかにもさまざまな貴重な意見をいただきました。

次の８ページですが、３項目めの長岡地域の今後のあり方について、まず、１項目めで、地域資源を共有し、それぞれの地域のよさを最大限生かして発展していきたいと。それから、飛びまして下から三

つ目ですが、お互いの持っているものを大切にし合える合併であって欲しいと。ほかにもご紹介することはたくさんありますが、そのようなポイントも含めていろんな意見をいただきまして、この内容につきましては後ほど資料の２の方でご説明する４ページの方にまとめてございますので、後ほどまたごらんいただきたいと思います。

以上でございます。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

ただいま説明をいただきました資料１につきまして何かご質問がありましたらお受けしたいと思いますが、よろしいですか。

「なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

後ほどまた何かありましたらお願いしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは次に、今度は資料２の方へ移っていただきたいと思います。

◎事務局（竹見）

それでは、続けてご説明をさせていただきます。恐縮ですが、また座って説明させていただきます。

まず、資料ナンバーの２に入ります前に今までの作業とか、これからのことについてちょっと流れをご説明をさせていただきます。資料は飛びますけれども、資料ナンバーの４をごらんください。今まで３月から調査といいますか、地域のいろいろな人々の思いを材料として構築していくために調査を行ってまいりました。５月30日にはその調査結果と、それから分析を皆様方にご報告をさせていただいたところです。こちらの資料ナンバー４をごらんいただきますと、イラストで書いてございますけれども、地域全体の声、いわゆる地域アンケート調査、それから有識者ヒアリング、それからまちづくりワークショップ、それから首長、議会代表者取材調査ということで、新市将来構想を策定をしていくためにいろんな方々の思いや考え方が材料として浮かび上がってきたということです。それで、今その材料をもとに事務局とコンサルタントの方で本格的な作業に入っているところなんですが、今日は中間ということですが、内容をまた後でご報告いたします。

そして、その一番外側にある材料を整理しまして、一番外側の方に水色のリングがありますけども、一番左側の方にＷＡＮＴというふうに書いてあります。これは期待、それから希望やありたいと思う事項です。それから、右側の方にＣＡＮと書いてありますけども、現状の強みを生かした実現可能事項です。これをいろんな材料から整理をさせていただきました。それから、真ん中のちょっと濃い水色のリングなんですけど、そういったＷＡＮＴとＣＡＮという、そういったものから英語で言いますとＷＩＬＬということになりますが、いわゆる実現すべき事柄が出てまいります。それは、いろんな実現すべき事柄がこの水色のリングの中にいっぱいあるというふうに考えていただけばよろしいかと思います。

それから、いろんな実現すべき事柄を五つの事柄に整理しております。それが四角い緑色で書いてあ

りますけども、そちらの方にまとめてあります。新市イメージに関するビジョンのキーワード、それから生活ハードビジョンのキーワード、そして生活ソフトビジョンのキーワード、そして地域資源活用に関するビジョンのキーワード、そして新市マインドに関するビジョンのキーワードということで、このキーワードにつきましてはいろんな実現すべき事柄が積み重なってキーワードが浮かび上がってきているということで、今日はまた後で資料２の方でご説明しますけども、このキーワードを後で皆様方からご意見をいただくことになります。

それから、いろんなキーワードが出てまいりますけれども、それらは一つのキーワードだけを考えて将来像が浮かび上がるものではないということです。それは、すべてリングでつながっているということで、例えば福祉だったら福祉だけのことを考えるんじゃなくて、福祉、それから地域資源とか、それから地域の人たちの人間像とか、そういったものがつながり合わさって一つの新市の地域らしさというものが出てくるというふうにお考えいただければよろしいかと思います。

それらの流れを例示で提示させていただきたいんですが、それが資料ナンバーの３です。新市地域らしさ価値のモデル例ということで、こちらに簡単に提示させていただいております。一番上のグラフです。これは、今までの調査した結果を分析しております。マトリクス分析や、いわゆるスウォット分析というものなんですが、そういった実現したい像とか、例えばそれから大切なもの、それから競争力あるもの、そういったものを分析しながら、整理しながら、次に真ん中のＷＡＮＴとＣＡＮとＷＩＬＬと書いてありますが、そういったものに整理をしていきます。そういったＷＡＮＴとかＣＡＮを整理していきますと、今度先ほど申し上げましたように実現すべき事柄が出てきたり、それからダイレクトに実現すべき将来像とか、そういったものが出てまいります。それから、右に書いてありますように環境調査とか、そういったものを組み合わせながら、最終的に新市地域らしさ価値を考える部分の一つの例示としてブランディング価値が確立されてくると。これにつきましては、あくまでもモデル例ということでお考えになっていただければよろしいかと思います。例えばこういったものを統合していきますと、元気に満ちた米産地というものが一つの例示として浮かび上がってくるということで考えていただければよろしいかと思います。このブランディング価値、いわゆる新市地域らしさ価値についてはそういったいろんな実現すべき将来像を統合していきますので、幾つかのものが出てまいります。例えば結果的に五つだったら五つ出たとします。その五つをまた統合していきますと、新市になったときの全体の将来像といいますか、将来ビジョンが浮かび上がってくるということで考えていただければよろしいかと思います。

流れについては、イメージ的にご説明させていただきましたけども、続いて資料ナンバー２の方をごらんください。こちらにつきましては、１ページ目から５ページ目につきましては各地域アンケートとか、その調査の項目ごとに整理をしております。それから、６ページ以降につきましては今度先ほどの資料ナンバー４の領域、五つの領域に分けて、それを整理して、先ほどのキーワード、そちらのキーワードを浮かび上がらせてきていると。まだ作業途中ですけども、その後でまた皆様方からご意見をいた

だきたいと思いますので、よろしくお願いします。

資料につきましては、コンサルタントの方から詳細に説明をいたします。

◎コンサル（岡村）

続けさせていただきます。

今の資料ナンバー２ですが、１ページから５ページまで、見方だけを簡単に説明をさせていただきます。各ページごとに一番左の上、それから左のところに何の調査をやったというのが書いてありまして、例えば１ページが地域アンケート調査の中から出されたＣＡＮ、ＷＡＮＴ、ＷＩＬＬということです。その中を見ますと、四角で囲った項目が類型化した、区分けした項目でございまして、例えばＣＡＮのところでは今後も維持、強化すべき地域特性と、そういう中で三つほど挙げております。それから、現状で評価できる行政施策ということで四つ挙がっております。それから、すぐれた地域資源ということでこの下に書いて、みんな同じような分け方で整理しておりまして、一番右側にいってＷＩＬＬということで実現すべき事項と。この中でも地域特性、それから行政施策、地域資源の活用と、そういう整理でまとめております。

次の２ページでは有識者ヒアリングの調査結果でございますが、ここでは有識者の意見でございますので、一番右側のＷＩＬＬについても１ページとは違って、今度ビジョンのあり方と、個別事項と、そういう整理でＷＩＬＬの内容をここで整理しております。

３ページでは、市民のまちづくりワークショップの結果でございますが、この中で例えば真ん中のＷＡＮＴというところを見ますと、産業関連、生活関連、文化関連、行政と住民と、そういう区分けの中でいろいろ意見、期待が出されまして、それを整理したものでございます。右側のＷＩＬＬでは総合的ビジョン、キーワードということでそれぞれの意見、それから個別のイメージについても挙がっております。以下、同じような整理の方法で、４ページについては首長、議会代表者のヒアリングに当たりましては、ＷＡＮＴとＷＩＬＬがかなり一体化、類似しているということで、枠は同じところに入れてございます。

続きまして、６ページからの５として、新市地域らしさ価値（ブランディング価値）構築の条件・キーワードの検討、この説明をいたします。この図も５枚にわたって続いておりますが、それぞれ右の上のところに１）と、新市イメージに関する条件、キーワードの検討、めくっていただきますと、次の７ページが産業、都市基盤に関する条件、キーワードと、８ページが福祉、教育、文化に関する条件、キーワードと、９ページが新市マインド、人間像に関する条件、キーワード、最後10ページが地域資源活用に関する条件、キーワード、こういった項目ごとの整理でしております。

左の図の見方ですが、縦の軸と横の軸がありまして、縦を上にいくほどありたい姿、ＷＡＮＴがより強いという軸、そして右側にいくと、ＣＡＮがより強みだと。そして、右の上、右にいって、上にいって、右の枠ですが、そこにいくほどＷＩＬＬがより強いと。そういう整理の中で先ほど５ページまであった、たくさんあった項目をその中に入れ分けまして、それで新たにつくり上げるＷＡＮＴの欄と、強

みを維持、強化するＷＩＬＬの欄と、そして右下の現状の強みのＣＡＮの欄と、そういうふうに整理しました。ＷＡＮＴとＷＩＬＬについてはつながっている部分がありますので、それを真ん中にちょっと赤の濃い長四角がありますが、そこの欄のところに出ております。例えば６ページの方でＷＡＮＴを見ますと、働きやすいまちとか、高福祉のまち、そして世界に向けて誇れるまちと、そういう項目が挙がっておりますし、ＷＩＬＬの方を見ますと、食と住の充実したまちと、山と里と都市が調和し、自然が豊かなまちと、人が育ち、わをつくっていくまちと、それぞれ思いがこの中に入っております。それから、ＷＡＮＴとＷＩＬＬの共通する長四角のところですが、緩やかなつながりとパッチワーク型の都市と、それから環境重視の田園都市的発展などなど挙がっております。

右側を見ていただきまして、右の薄い青の四角のところです。ここには、ビジョン策定に向けた条件、それから盛り込むべき概念、キーワードの特に重要と考えられるものをここで整理しました。この６ページでは５項目ありますが、多様性、それから調和、独自性、住みやすさ、その他ということでキーワードを整理しました。多様性では、多様な産業が存在していて働きやすいまちであるというようなこと。

それから、調和では各地域や、そこに住む人はそれぞれ個性的であり、その個性が調和していると。

ちょっと飛びまして、独自性では新潟市とは違った魅力と独自性があると。そういうことでそれぞれのキーワード、内容を整理しました。

次の７ページでも同じような見方ですが、右側の方で触れますと、産業、都市基盤に関する条件の重要と思われる概念、キーワード、右下のところですが、製造業の再生、それから食による活性化、観光振興、新産業育成、自然と都市の共存、こういった項目が挙げられます。製造業の再生でいえば、産業振興の中心は製造業の再生、発展であり、農業、観光、商店街活性化も期待があると。それから、観光振興の方で見ますと、観光産業では地域資源を活用した滞在型、参加型観光としての振興が期待されると、こういった形で内容を整理いたしました。

次の８ページで、三つ目の項目で福祉、教育、文化でございますが、右の下です。五つ挙げておりますが、人材育成、コミュニティーとネットワーク、それから地域文化保全活用、老若共働、官民の協力と、こういった項目が重要と考えられます。例えばコミュニティーとネットワークの方でありますと、現市町村よりも小さな単位でのコミュニティー形成と、その内外のネットワークづくりというようなことが挙がっております。老若共働の方で見ますと、高齢者への福祉ではなく、高齢者を地域の資源として老若が共働するまちづくりというようなテーマを挙げております。

続きまして、９ページの新市マインド、人間像に関するキーワードですが、同じく右の下を見ていきますと、大きくは二つでございます。一つが地域内で自己改革的に進めるべきマインド、人間像ということで、内容的には情報に敏感で積極的かつチャレンジングに活動し、向上していきたいというようなこと、その他挙がっております。イメージとして考えられるのは、ここでは元気さとか、おおらかさと、そういったものが考えられます。二つ目の地域外へ訴求するマインド、人間像の中では、強みの積極面、自主行動面である実証的、理論的な誠実さと、思慮深く対立を好まない性格という人間像をイメージし

たビジョンが設定されると。キーワードでいいますと、誠実さ、素直さ、確かさと、こういったものがイメージされるということでございます。

それから、10ページでございます。地域資源活用に関する条件、キーワードということで、整理の手順としてはアピール性があって観光資源ともなり得る地域資源を抽出いたしました。それぞれの中から相互関係を定めまして、左に図がございます。これは、白抜きの線だけの丸が三つあるのと、色をべたっと塗った円が三つあります。最初に、色を塗った方の色で水色と黄緑色とグレーとありますが、これは自然と人間の共創物というふうな考え方で、水と土と火と、そういうものが挙げられると。これは、例えば水でいえばおいしい水とか、信濃川とか、雪、川による結びつきと、そういったものがこれまでキーワードとして挙がっておりましたので、それをくくると、水というのが考えられるわけです。それから、土の方で言えば地域野菜とか、レンコン、山岳と平野、そして水田改良、豊かな土壌と、そういったものを一くくりにすると、土というのが言葉として整理されます。それから、火の方でいえば天然ガス、花火、蛍、そういったものが火ということで、光ということでもありますが、くくれるかと思います。これが総合的にアピールできる三つの言葉になると思うんですけど。

もう一つ、文化資源ということで見ていって、白抜きの方の線の丸ですが、食と路と技、その三つでくくれると。これは例えば食の方で見れば、おいしい水と、山岳と平野、そして地域野菜、そういったものが今度食ということでくくれて、同時に各郷土のいろいろ料理ですとか、そういったものがこの中に含まれると。路の方でいいますと、河川の交通もありましたし、そして上信越、北陸道の交点、そして交通の利便性、そういったものがこの路という概念で整理されると。下の技ということで見ますと、水田の改良もそうですし、花火もそうです。そして、産業としての製造業、そして伝統的な産業、そういったもの、それから観光にもなりますが、牛の角突きや、大凧の祭りと、そういったものも含めて技ということでくくれると。こういう見方でこの地域資源活用のキーワードが、次元が二つございましたが、三つずつということで整理できたわけでございます。

改めて先ほどご紹介した資料ナンバー４を見ていただければ、この薄緑色でくくったところ、これが五つありまして、今説明をしてきた項目でございます。繰り返しますと、真ん中の上ですが、新市のイメージに関するビジョンのキーワードと。そして、左側に生活のハードと生活のソフトというのが二つありますが、産業振興、都市基盤のキーワード、そして下の方でソフト、行政運営のビジョンのキーワードと、さらに右の方にいきまして新市マインド、人間像に関するビジョンのキーワード、そして地域資源活用のビジョンのキーワードということで、先ほどから６ページから整理したものがここで一くくりにまとめて整理されて、それらを総合化して、この真ん中にあります新市地域らしさ価値、ブランディング価値というのが整理されていると。

先ほどご紹介した資料ナンバー３の方でつけ加えますと、このブランディング価値については元気に満ちた米産地というのが生まれてきましたが、一番下のところを見ていただきますと、これは長岡地域の新市将来ビジョン、あるべき姿ということで考えたものでございます。ブランドの意味を統合すると

いうことでつくってみますと、新市、伝統を基盤としつつ、競争力ある文化の発信地ということが考えられます。あくまでもこれは一つのモデル例ということでご紹介しましたが、先ほどから説明したブランディング価値のいろいろな調査を行った結果に基づくと、こういう答えが出てくるということでご理解いただきたいと思います。

以上で説明を終わります。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。次第でいきますと、３番目の新市地域らしさの価値についてというところに入っているわけでありまして、これからそれぞれ委員の方々から具体的な新しい市、地域社会の一つのイメージを具体的にひとつご提案をしていただきたいと思います。第４回までの間にワークショップからもさまざまな調査内容、そして分析をした報告をいただきました。特に第４回のほとんどの時間を使ってワークショップの方々からの報告を伺ったわけでありますけども、基本的には一つの地域社会の文化性であるとか、歴史性であるとか、そういったことについてはお互いに尊敬し合い、認め合い、そういった伝統の上に新しい価値概念を構築していこうというふうな共通の軸が見えていたような気がいたします。そういうわけで、この小委員会としてはワークショップのそういった意見をベースに、今まで調査をしていただいた調査内容、分析した内容について、それを今整理して説明していただきましたけども、そういったものをベースにいたしまして、今日はこういう新しい市にしたいんだと、地域にしたいんだということを自由にひとつご発言をいただきたいと思います。

今日のご発言内容というのは、ここにありますようにキーワードとして整理をしていただいた五つの分野、これはっきり明確に見えておりますし、さらにはＷＩＬＬ、ＣＡＮ、ＷＡＮＴという非常に意思表示のはっきりした分野が提示されております。そういうことで、この前のときに申し上げましたけども、自分がひょっとして市長の席に着いたときにはどういうまちを将来つくっていこうとしているのかというふうなことを、仮の姿でありますけれども、ご発言をいただければというふうな気がしております。この整理をしていただいた、これは資料ナンバー２の６ページ、このあたりから進めさせていただければ非常に進みやすいんではないかというふうな気もいたしますが、この６ページの右の方に書いてあります新市のイメージに関する条件、キーワードの検討というところがあります。下に緑でもって枠取りがしてありまして、多様性とか、調和とか、独自性と、住みやすさというふうな言葉が、キーワードがそこに列記されております。この言葉を具体的にもし新しい市に落とし込んでいったらどういう市のイメージが姿として見えてくるか、まずこの辺から入ってみたいと思います。

まず最初に、多様性として多様な産業が存在する、振興していくと。働きやすいまちであるというのは、この間からも言われておりますように、新しい地域社会が生まれたときに、そこで自分たちが本当に働きやすいということが市民の方々の大きな希望でございまして、働きやすいまち、そして働くことに喜びを感じるまち、そういうものを市民たちは期待をしていると思いますが、その辺を含めて最初の多様性、調和、独自性、住みやすさ、その辺の具体的なご意見をぜひお聞かせいただきたいと、こうい

うふうに思いますが、どなたでも結構でございますが、そのさまざまな分析しました資料はその左側に列記されています。どうぞどなたでも結構でございますけど。

はい。

◎事務局（北谷）

事務局長の北谷ですけども、先ほどの事務局の説明をちょっと先に補足させていただきますけれども、今新市の将来構想をつくっている最中でありますけども、そもそも新市の将来構想というのは新長岡市、30万都市が30年後このエリアがこうあるべきだという将来30年後の設計図であります。それを我々事務方ではとてもつくれないので、今まで有識者のヒアリングや7,000人のアンケート、住民のワークショップ等でご意見を伺って、今こういう新たにつくるものとか、将来も強さを維持していくものとか、こういうふうに整理させていただいて、なおかつキーワードも整理いたしました。それで、ここで今日皆様各委員からご意見をいただきたいのは、今最終的にいわゆる新市の新市らしさ、地域らしさというブランディング構築ということをやっている最中なんですが、今日お願いしたいのは皆様方の意見を参考にしたいということです。それは、ここに書いて我々が整理してきたもの、例えばＷＩＬＬの中でも、あるいはキーワードの中でも、これは自分も同感だと、これはもっと特に強調すべきだとか、逆に言うとＷＩＬＬ、ＷＡＮＴの中にない言葉でも、こういった言葉、何とかのまちとか、そういったものが必要だと、そういう具体的なご意見をいただきたいということであります。別に堅苦しくじゃなくて、例えば今私の正面に見附の方が見えたんで、見附でいうと、へそラーメンとかが有名ですけども、例えばラーメンでも日本国内ではラーメンで有名なまちになりたいとか、そういったことでも結構なんで、いろいろ具体的におもしろいご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。本当に楽にご発言いただきたいんです。例えば安全、安心のまちと、こういう言葉がありますけども、これは言葉でして、安心、安全って一体何なのと、こういうことになるわけですけども、我々が考えている安心というのは実はかぎをかけないで、まちじゅうもうかぎは要らないと、かぎレスのまちをつくりたいと、こういうことでもいいんです。ですから、東京からこっちへ引っ越してきてもらって、家を建てて生活してもらったときには、その家にはかぎが一つもないと。隣にもないと。昔日本の生活圏というのは、かぎがなかったわけです。それがだんだん、だんだん近代化してきて、かぎができてきて、東京では今や自分でもかぎがわからないようなマンションに住んで、外へ出たら入れなくなっちゃうという、そういう状況になっているわけです。密室で何か行われたときには、全く今度外部とのコミュニケーションがないから、わかんないと、そんなような世界になっちゃっている。だから、今度できる新しい地域はかぎがないと、そういうふうにしたいんだと、こういうことでも結構なんです。じゃ、それを一体行政としてどうやっていくのかということになったときには、これは行政に任せりゃいいわけですから、早くかぎのないまちつくってくれということでお願いをすればいいわけでありまして、そういうまちづくりをしていくというふうなことをおっしゃっていただけれ

ばありがたいというふうな気がします。特に多様な産業のあるまちと書いてありますけども、今我々が産業を興すときに、やはりどうしても産業廃棄物の問題とか、それから公害の問題が出てくるわけです。

すると、今我々が実際やっている仕事の中で産業廃棄物が出ない産業って一体何だろうか。それを基本的な新しい地域の産業にしてしまうとか、それから公害を発生しないようなエネルギー源とは一体何なのかというふうなことを考える、そういうまちにしたいとか、そういうふうな一種の夢を含めた具体的なお話をしていただきたい。今事務局長さんのお話ありましたように30年、40年、50年先の話も実はあるわけです。ですから、そういう30年後、50年後にはこういうことは可能になるだろうというふうなことも含めて、ひとつさまざまな具体的なご意見をいただければというふうな気がしております。

また肩書はぜひ外していただいて結構でございますから、ひとつご発言。

はい。

◎委員（二澤和夫）

それでは、ちょっと皮切りで話をさせていただきたいというふうに思います。市長になったらどうするかというお話でございますが、私一番考えますのはもう四、五年たつと、日本の人口が収縮する時代に入るというふうに言われているわけです。それで、30万5,000人の都市ができたとしても、正直言ってこれ以上なかなか人口がふえるというふうな状況ではないだろうというふうに思います。それと、もう一つは高齢化はどんどん、どんどん進んでいくんではないかというふうに思うわけでございます。そういった中で活力を維持し、さらに発展していくためには何が一番必要かというふうな観点から考えますと、やはり若者の定着というふうなことをどうしてもやっていかなきゃだめだし、それから子育てというふうなものは大変重要になってくるだろうというふうに考えております。

それで、私が考えましたのは、日本一子育てがしやすい都市にしてはどうかというふうなことなんです。それは、なぜそうかといいますと、例えば自然の環境が非常に整っているとか、あるいはさっき人間像が出てきましたけれども、そういった人間像が非常に素朴であって、純情であって、そういったような人情があふれているとか、あるいは各地域に個性と歴史があるとか、あるいは落ちついた住環境があるとか、あるいは安全、安心なまちであるというふうなことから、ずっと推測していきますと、東京から例えば特に幼児とか義務教育の期間はぜひこの長岡に来て子育てをやってもらうというふうなことがあってもいいんじゃないかなというふうに思うわけです。そうなりますと、やはり若い人たちが住むことによって活力は出てくるんではないかというふうに思っておりまして、子育てというふうな私の個人的な意見ですけれども、やはり高齢福祉に少し金を配分し過ぎているんではないかというふうな気がいたしまして、もう少し子育ての方に金を配分していかないと、これから元気は出てこないだろうということも考えられるわけです。それで、この地域をいろいろな面からいうと、子育ての環境には私は恵まれていると思いますので、もう少しハード、ソフトを整備することによって日本一子育てのしやすいまちなり都市になり得るんじゃないかというふうな気がいたしまして、そんなイメージを一つ持っております。ちょっと皮切りに言わさせていただきますが。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

どうぞ何でも結構でございますが、どうぞ。

◎委員（北村　公）

自分は栃尾市ですので、夢みたいな話になるかもしれませんし、自分たちの地域のことばかり言って僭越なところもあるかもしれませんが、我々の栃尾市の中の大方の人そうなんですけれども、長岡に対しての意識というのはすごく強いわけです。東京あたりでどこの出身だと言うと、長岡の隣だとか、そういうふうな答え方をするわけです。そうすると、一番わかりがいいわけです。長岡に豊口先生もおられる大学ができたと。一昔前までは、皆さん勉学意欲のある人というのは東京に出ていったりとか、新潟大学行くとか、いろいろな方法あったわけですけども、せっかく長岡に大学ができて、団塊の世代の人よりももっと前の人たちというのは、勉学意欲があっても家庭の事情があったりしてなかなか勉強できなかったと。そこへもってきて、今現在では長岡に大学あるわけです。そのときに長岡の幾つかある大学をできたらそういう就業者を受け入れるような夜間大学にしていただきたいと。そうなると、例えば栃尾市あたりから一生懸命に仕事して終わっていくということになった場合に、やはり車で通うとか、いろいろな方法あるわけですけども、交通渋滞がすごく激しいんです。長岡に入っていく交通機能を、一昔前もそういうこと言われたこともあるんですけども、ヨーロッパ型の路面電車みたいの走らせて、直でもって入っていけるような、そういう新都市交通機能というんですか、そういうのを整備するようなことも考えていただきたいなと。それで、長岡にだけはできるだけ車が入れないようにとか、長岡市の郊外のところに大きな駐車場みたいのを設けて、そこまで来たらそこから乗って帰るというようなシステムでもいいですし、いろいろなことを考えて、今ちょっと発言させていただいたんですけども、夜間大学の件と、そういう新都市交通機能の件と、できたらそういうのを設けてほしいというふうに思います。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。非常にユニークなご発言だと思いますが。

お願いいたします。

◎委員（野田幹男）

小国の野田であります。私も先ほど長岡の助役さんが言われたの全く同感であります。小国町でも高齢化社会になる、あるいは生まれる子供が少ないということで、さりとて今若い世代が夫婦共稼ぎしなければならんという時代で、乳飲み子といいますか、乳幼児まで含めて町が何とかならんか、これはたびたび議会の議論になってきたわけでありまして、今まで三つあった保育園を一つにしました。父兄の中では随分抵抗がございました。しかし、将来のやはり生まれてくる人口動向を見ると、小国町としては一つにしなきゃならん。そのかわり保母の首を切るとか、職員減らすとかということでなく、より濃密な育児まで含めた保育園にしましょうと、こういうことで統合保育園にして乳幼児も預かることでス

タートしたわけです。つい２年ぐらい前からでありますけれども。何しろ生まれてくる子供は少ない。

あるいはまた、超高齢化社会になっていくということで、それと病気を治す医療から予防医療、高齢化社会の人間、皆さんがどのような形で健康を維持しながら、家庭はもう言うに及ばず、地域に貢献できるかと。あるいは、シルバーはシルバーなりの仕事ができるかということで模索してまいりました。

超高齢化社会で、予防医療にはどうしても医師が必要だということで、長年の懸案であった複数医師の確保をようやく最近になってこれが実現したということでありますから、この６ページの新市の地域らしさ価値（ブランディング価値）という、この新たにつくり上げるという高福祉のまちというのは、じゃ具体的にはどうするかということにできれば一歩踏み込んだこういうものも位置づけをしてもらえればありがたいと。そして、安全、安心なまちというのは、とりもなおさず総合的に考えておるわけでありましょうけれども、もう一つ踏み込んで、じゃ超高齢化社会の中では高い福祉というのはこうやっているんですよということにならないと、やはり踏み込んだ議論にはなっていかんだろうというふうに考えますが。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。私も今のご意見ひとつ賛成なんですけども、この地域に温泉が多いんです。

ヨーロッパにはバーデン・バーデンとかウイス・バーデン、ドイツにありますけども、温泉を活用した健康治療病院という、そういうのが向こうにはたくさんあるわけです。そういうものを活用して、特に高齢者の方たち、体に何か問題を持った方たちが集まってきて、すばらしい温泉を利用しながら、新しい治療生活に入りながら、地域社会に貢献をしていくというふうな豊かな温泉資源を使ったまちと、こういうものもできるだろうというふうな気がします。それと高齢社会と結びつけていくと、大きな一つの事業としてそれが発展していくんじゃないかというふうな気もちょっといたしておりますが、どうぞほかにまたご意見は。

お願いいたします。

◎委員（高野徳義）

山古志の高野といいます。新市の構想ということなんですが、私としてはそれぞれの地域の特性を生かしたまちづくりをやってもらいたいというのはあるんですけども、30万都市として中心部はやっぱり栄えてもらいたいと思うんです。長岡市には地下の駐車場があります。あれが何で地下なのか。地下は、商店街みたいにすることはできないんでしょうか、専門的な例えば横浜の地下街のような。雪の降る地方でやっぱり長岡の駅の東口、西口、あの辺がやっぱり寂しいというのは、我々ほかの離れた地域から見てもやっぱり残念です。地下にすばらしい一大ショッピングセンターみたいのはできないのかと。ここにも商店街の活性化とかというのあるんですが、ああいう地下に食堂街なら食堂街とか、そういったのをつくる。私は、かえって駐車場は外でいいんじゃないかと思うんですが、やっぱり買い物にたまに出ても、一つの店へ入ると、また雨でも降っていりゃ、傘差して出て行かなきゃならんと。車は雨に当たらんところへ入っているんですが、人間がそんなんでは、やっぱり今私ら受けている印象では喜多町

が中心部なのか、川崎あたりが中心部なのか、駅前あたりがあれなのか、やっぱり30万都市にふさわしい中心部の発達というのは必要だと考えているんで、ぜひ地下の駐車場でなくて、地下の商店街なんていうのは無理なんでしょうか。

◎委員長（豊口　協）

かなり具体的なご提案でございますけど、ほかにございませんか。

はい、お願いいたします。

◎委員（池田守明）

中之島の池田でございます。先ほど長岡の助役さんがおっしゃったことと誠に同感なんですが、20世紀は地方から都会へ相当人が移動しているわけです。それで、高度成長を支えたわけでありますが、21世紀は向こうの関東の方の大都市からこちらの方へ帰ってくるような施策をしたらいいなと私は前から思っていたんですが、その一つとして和歌山県で今やっていられるそうなんですが、緑の雇用事業というものです。今都会では非常に職をやむなく離れる方が400万人ほどおられるそうでございますが、その人たちにそういう状況の中で地方の豊かな自然があるわけです。その人たちから地方へ帰ってきてもらうという施策なんですが、和歌山県の緑の雇用事業というのは、これは要するに森林事業を転職に加えられたわけでございますが、私どもの８市町村合併すれば森林もあるわけでございますし、また農地、特に農村部において過疎化が進んでおります。老齢化が進んでおると。したがって、コミュニティーも何となく将来のビジョンが描けないというような状況にあるわけですが、都会においてもまたそういう雇用事情でコミュニティーが不足して、何となく暗いイメージになっていると。そういう関係で都会の人たちが地方へ来れる政策といいますか、とっていただきたいような気がいたすわけでございます。それで、林業ばかりじゃなくて農業特区もあるわけでございますが、農村部へ来ると非常に米政策等で遊んでいる農地がたくさんあるわけなんで、都会から地方でちょっと農業やりたいというような人たちに門戸を広げるといいますか、農業をやるにも専門的にやる人、また自分なりにゆっくりとマイペースで本当に趣味的にやる人、両方受け入れるような施策を新市の中に入れていただければ、人口がせっかく合併して30万都市になっても、10年後に25万になっちゃ、これどうにもなりませんので、10年後には40万になるというような施策を考えていったらいいんでないかと、こう思っているところであります。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。30万が将来50万になると。それはどうしたらいいのだと、こういうことになるわけです。これは、私もとにかく新しいまちがスタートしたら、人口がとにかく増えていくと。これは、必須条件だと私は思うんです。それを増やすためにどうしたらいいかということをまたみんなで考えなくちゃいけないんですけども、たまたま私は実は東京で生まれまして、基本的に60歳までは東京にいたんです。60歳に長岡へ来まして、ちょっときざな言い方ですけども、ああ、私は生きていてよかったと思いました。なぜ思ったかということです。信濃川の土手に立って夕日が沈んでいく自然の景観

を見たときに、こんなに美しい太陽、夕日がまだ日本にもあったんだと。これは60歳にして、しばらくぶりに感動を味わったんです。東京の夕日というのは、皆さん方、ごらんになった方もあると思いますけども、溶鉱炉の中に火の塊が落ちていくみたいなもんです。真っ黒に汚れた大気の中に西の方に太陽が沈んでいきますと、どす黒くなるんです、太陽が。これは、しかも東京都庁の一番上から見ていますと、中央線という電車が、ばあっと走っていまして、その向こうにちょうど太陽が沈むんです、高雄山の方に。本当に黒い溶鉱炉の壁の中に太陽が沈んでいく姿です。ああ、汚れたなという太陽を見ながらずっと60まで生きてきて、長岡へ来て夕日を見て、こんなすばらしい夕日があったんだと。

それと、もう一つは、この前もお話ししたと思うんですけども、信濃川を渡りますと、これ１キロですから、15分かかるんです。ということは、15分間に太陽の反射の光が変わるんです。変わるということは、地球が回っているということを教えてくれるんです。それまで太陽が地球を回っているような感じだったんですけども、渡ってみて初めて実は地球が回っているということを悟らされました。しかも、川は生きているわけです。生きている川というのは東京周辺にはございません、はっきり言って。ほとんど死んでいます。だけど、信濃川は生きている。

長岡に住んでみて、水道の水を飲んだら、実はおいしかったと。これは、皆さん方に笑われるんです。

昔はもっとおいしかったぞと言われるんですが、水道の水を飲んだときに、こんなおいしい水道の水がまだあったんだ。これは長岡に60歳で来て初めて体験して、そういうことで感動をずっと繰り返しているわけですけども、実は水もおいしい。空気もおいしい。まちがまず静かです。私は、鎌倉に住んでいますけども、24時間飛行機が飛んでいます、鎌倉の上をヘリコプターが休みなしに。なぜかといったら、横須賀の基地があって、米軍の基地があります。その間をとにかく連中はヘリコプターで移動しているわけです。これ鎌倉の方へ飛ぶわけです。バリバリ、バリバリいっています。もうとにかくすごい音です。古都鎌倉なんていったって、騒音の下に置かれている、ある狭い地域でしかない。そういうところで生活をしていた。

しかも、私は東京生まれですけど、ふるさとがありません。生まれた昔の場所へ行ってみても、ふるさとという感じはありません。昔の花も咲いていなければ、昔の川もないし、何もない。ごみごみしたまち並みがあるだけです。ですから、ふるさとは完全になくなっちゃった。行くふるさとがない、そういう人間が東京にいっぱいいるわけです。

やはり人間的な生活をもう一遍してみたいと思えば、ぜひとも長岡地域にいらっしゃいと。この地域にいらっしゃいと。こんなすばらしいところですよというセッティングを一つ一つやっていったときに、例えば水はとにかく驚くべきほどにおいしい水だという水を維持していくためにはどうしたらいいのか。

そして、緑を残していくためにはどうしたらいいのか。住むための家の周りの環境をどうしたらいいのかというふうなことを徐々にしていけば、人は移って住んできてくれるだろうというふうな気がするんです。ですから、人口をいかに増やすかということの作戦も、ストラテジーも私はぜひともやっていかなきゃいけないだろうというふうな気がしているんです。これは、単に若者だけじゃなくて高齢者も

含めた人口増ですから、バランスのとれた人口増をやっていくべきだ。それともう一つ、さっきお話ありました大学教育、これもやっていくべきだろうと。とにかく安心して行ける大学というのは、そう東京には多くなくなりました。危なくなってきましたよね、小学校までもそうですけど。安心して子供が勉強できる場所はどうしてつくったらいいか、どういう整備したらいいかということも一つあるだろうと思います。こんなこともちょっと考えておりましたが、どうぞほかにご意見がありましたら。

はい、お願いします。

◎委員（外山康男）

栃尾市の外山でございます。今非常に豊口先生からいいお話がありました。私も実は考えていたのは、やはり長岡地域はナンバーワンを何か一つ求めて、20年後、30年後を求めた、夢のある都市づくりというのを求めなきゃならんと思っています。これは何かというと、やっぱり基本的には産業がなければなかなか定着しませんが、全体の地域で私どもも今豊口先生の鎌倉というのも都市の中では市民所得ナンバーワンの都市ですよね、たしか鎌倉は。そういう土地からもこちらのよさというのが非常に私もあると思って、自慢できるもの、ナンバーワンのものが。これは、やっぱり生かすべきだと思うんです。たまたま都市ランキングなんていうのがよくダイヤモンド社から出ていますが、栃尾が何でこんな上位600も700もある都市の中でいいのかなというと実は住宅の広さなんです。やはり宅地の広さを自然の中で求めると、何でもって生きていけばよいかというのが自然との共生、それからゆとり、いやしだと思うんです。そういう中で宅地を求めるなんていったら、もう300坪土地求められるんだと、この地域で。私どもだって安く手に入る場所、あるいはこれは失礼ですが、山古志さんや小国さんだって結構あると思うんです。自然との共生しようという人たちもいると思うんです。やっぱりこういうものを目指して生活基盤だけはきちっとやると。そういう中でゆとりと自然との共生を求めてくる人たち、そういう人を大事にしていけば、やっぱりすばらしい自然と生きているなというものを求めたまちづくり。都市人口はそうでなくても、やっぱり全体としてそういうものを何かナンバーワンというのを求めたまちづくりというのが非常に大事だと思います。当然それには相互の教育、それから子育て、医療、みんなあると思うんですが、やっぱり何かナンバーワンを求めたまちづくりを20年後、30年後に求めて、目標にして、やっぱり夢のある都市、先ほど北谷局長が言われました新しい長岡市と、新長岡市の計画をつくったらいいんじゃないかと思います。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。

どうぞお願いします。

◎委員（小池　進）

今ナンバーワンの話が出ましたけど、私は三島町の鳥越に住んでいます。そこには、長岡市、越路町、三島町で衛生処理組合で私の裏山でごみを焼却し、最終処分場がございます。そこで、今人口がやや増えているのはこれ三島の一つの自慢かもしれません。そういうところで、どうして増えるのかというと、

結局焼却場があるから、土地が安いわけじゃないと思うんですけれども、非常に安いんです。しかも、長岡のまちの中央部に出るには、朝は少しラッシュですから、あれですけども、15分で参ります。そういうところで、大体坪今７万以下だと思います。しかも、インフラ整備は完全に下水道から整っているわけでございます。それから、私どもが今やっているのですが墓地まで経営しているわけでございます。

自慢するわけじゃございませんけど、紹介だけしておきますが、少し残っていますので、2.75平米で13万円でございますので、希望のある方はぜひ。長岡一望のところでございます。

そこで、今何やっているかということなんですが、安全な住みよいまちということで、そういう焼却場を控えたり、あるいは最終処分場があるんですけども、衛生処理組合で法改正に基づいてダイオキシンがほとんど出ないような焼却方法を今やっているわけでございます。それから、最終処分場ですから、いろんなものを埋め立てられるわけです。その浸水した水のダイオキシンもしょっちゅう調べているわけです。これは組合でもやっておりますし、私ども独自で民間で公害委員会というのを結成しまして、本当にボランティアでやっているんですが、ベテランの分析する方もございまして、視触試験でございますけれども、ガスクロマトなんていう、そういう高級なことはできませんので、それと突き合わせてお互いに安全を確認しながら、その浸水した水は近くの水田に大事な田んぼの水として活用されているわけですので、今やや心配しているのは塩素成分が非常に多うございまして、これを何とかしなきゃならない。ダイオキシンはもう解決しておりますけども、そういうようなことでいろいろと工夫しながらやっているんですが、農家の経営者は基盤整備をやりまして、大農経営で何とかおいしい米づくりということで、その近くに農場がございますから、いわゆる循環型の農業をやろうということで、自分たちのつくった米のわらをそこへ農場へ送り込んで、農場では今度堆肥をつくって田んぼに返すという、そういう有機農業を始めようとしているわけです。一番多くつくっている方はもう20町歩ぐらい一人でつくっておりますけども、これもワークショップの一員でここに参加してくれましたんで、そういう方々もやっているわけですが、いろんな問題が錯綜しています。それを一つ一つやっぱりある程度解決していく努力が必要であります。

それから、今人口が増えつつあるということで、若者も来てくれていますけれども、さらに増やそうという試みをやっていまして、宅地造成しておるわけですが、私も今団地に住んでおるんです。そこにはほとんど若者が多うございますけれども、昔からの地域に住むお年寄りがたくさんおります。何とか医療費を軽減する方法はないだろうかということで年寄りのボランティアを募り始めまして、今何やっているかというと学校林の再生を始めたんです。学校林というのは、昔は私どもが子供のころは学校の大事な燃料でもありまして、燃料の産地でございました。きれいな松の美林でございまして、高学年は折損木を学校へ運んで冬の燃料にしていたわけです。小さな子供はそこは遊び場所だった。村の人はそこは松ですから、いろんなキノコがたくさん出るところでございました。そして、今は松くい虫で無残な山になったんですが、それを再生しようというので、今コナラ群落が再生し始めているんです。それは、ボランティアで雑木を刈ったり、あるいはまた緑の百年物語、これ栃尾さんでもやっていますけれ

ども、あれは繁窪ですか、あそこでブナの木を植林してやっていますが、私どものところはブナは余り植生としては合わないようでございますので、自然のコナラ群落を何とか育てよう。そうすると、そこから約200町歩先には長岡の雪国植物園がある。それも将来は飲み込んでしまおうじゃないかと、あそこは30町歩ですから。私どものところは、大体200町歩ぐらいあるわけです。手つかずの、本当に手の加わっていない、そういうところを幸い東北電力が電力の鉄塔の下に作業道をつくってくれました。年寄りが歩くにはすばらしいんです。そこに折損木を利用して札をつくりまして、標柱といいますか、折損木を縦にすぱっと切って、そしてそこに文字を書いて、万葉の道路というのは、植物にこういう植物ですよということを紹介するのに歌で紹介するような、そういうやり方をしようじゃないかということで今進めているんですけども、今回も県の緑の百年委員会にそういうことを出しましたら、少し金をいただくことになりました。それから、林野庁でもそういう学校林のボランティア活動に対する補助制度がございまして、そこにも申請を出しております。

これがどういうふうになりますか。将来は、縄文土器なども焼いてみたいと。あるいは、夢はたくさんあるわけですが、そこで炭を焼いて、栃尾さんでも、あれは上塩ですか、あそこで竹炭を焼いていると。これもまちおこしにすばらしいもんだということを新聞で知っておりますので、いずれは拝見したいと思っているんですけども、そういうことをやりながら言葉ではなくて自然と皆さんが集まってくるような、そういう地域にしたい。だから、まだいっぱい住宅の土地があいているんです。これは、バブルが崩壊してからなかなか安いんですけれども、家をつくろうという若者がいないんでしょうか。そんなことで、これからは長岡で非常によくやっています児童館のシステムとか、そういうのも取り入れながら、雇用といいましょうか、そういう楽、安心して子供を面倒見ていただけるような地域にしなきゃならないと。助役さんも来ていますから、まちでぜひ保育所を増設しなさいと。今はなみずき団地というのを造成していますけども、そのど真ん中に保育所をつくって欲しい、こういうお願いをしているところでございまして、こういうことはまた助役さんからお話しいただくとありがたいと思っているんですが、そういういわゆるお年寄りの持つ資質を何とか利用いたしまして、チェーンソーを使える人はチェーンソー、それから草刈り機を使う人は草刈り機を使ってもらって学校林を整備しながらだんだんと広げておる。金は何もないわけですから、何から始めたかというと、廃品回収を行いました。資源ごみを集めますと、鳥越は大体400戸近くありますから、１度集めますと大体７トンぐらいの古新聞とか雑誌が集まります。幸いと言ったらいいか、町はそういう分別収集はやっていますけれども、新聞とか雑誌は集めていないんです。私ども集めまして、１キログラム８円の奨励金をいただきまして、７トンですと大体５万から６万近くになりますから、それをボランティアの作業が終わる２時間か２時間半後ですかね、年寄りですから。それで、帰ってきて、この間も桜の咲くころ桜の木の下でござを引いて、一杯飲みながら、600円の弁当をつつきながら、それが楽しみで、その話の中に村おこしの話とか、いろんな世間話が出てくるわけです。これは大事なことだなと、ようやく気がつき始めました。これが地方自治かもしれんぞという、これがやっぱりＮＰＯとか、あるいは地域のコミュニティー活動の一つのあり方

を示しているのかななんて自分ながら満足しているんですが、自己満足なんでございまして、そこまで思っているかどうかわかりませんけども、そういう仕事をやりながら、それこそ安全、安心のまちにしていかなきゃならん。食べ物もそうなんで、食糧もそういう形でやっていかなきゃならないし、そのことによって福祉にもつながっていくわけでございますし、医療費も軽減されていくんじゃないかと、こう思っているわけですが、つまらんことを申し上げましたけども、何でもいいということですから、お話し申し上げました。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。今までそれぞれの地域でいろんなことやってこられていると思いますけども、これからは新しい新市全体の地域にターゲットを絞ってやっていかなくちゃいけないと。ですから、今までやってこられた一つの成果の上がったことをこの８市町村の全域の中でどういう形でイメージアップにつなげていくかということがこれから大きな課題になってくると思うんです。私は、個人的にちょっと前から申し上げていますけども、とにかく人のふんどしで相撲をとって活性化していくということも一つあると思うんです。これは前からもちょっと申し上げて、いろいろ言われているんですけども、とにかく新潟市というのは長岡地域よりも広くて、また今度合併しますから、人口が増えるんですけども、政令指定都市にしたいと篠田市長はおっしゃっているわけです。ですから、どうぞしてくださいと。

政令指定都市になれば県庁が不要になるわけです、これは。もう私は神奈川県にいて、県庁がどんなに寂しい生活をしているかよく知っています、県の方が。とにかく横浜のまちの中歩けないんですから。

横浜市の人たちは県庁のお役人の方たちに対して非常に冷たいです、はっきり言いまして。それが政令指定都市になったところは全部そうなんです、実態として。だから、県庁はどうしても新潟市にはいられなくなっちゃうんです。だから、ぜひともこちらへお呼びして、オフィス・アルカディアのところに広いスペースありますから、そこへちゃんと県庁移築していただくと、自動的に人口は増えていきます。それから、人の交流も増える。しかも、市庁舎をつくるときに我々も知恵を出して新しい市庁舎をこうした方がいいんだというようなことも提案をする。近代的な市庁舎ができるかもしれない。

市庁舎ができて移ってきた。長岡市としても、今度皆さん方と一緒に新しい市庁舎をつくんなきゃいけないんです。これは、８市町村が一緒になったら新しい長岡市庁舎をつくんなきゃいけないです。今のところ不便ですから、やっぱりここは。だから、もうちょっと便利のいいところに市庁舎つくったらどうかと、この間市長に伺いましたら、これは地震にちょっと弱くなっているんで、耐震構造にするためには何十億かかかるらしいんです。それはもったいないから、そのお金をかけないで、新しい市庁舎を８市町村の人たちの知恵でもってつくって、１階から４階までは厚生会館の施設を入れて、その上に市役所の機能を入れて、先ほど駐車場が、あれはつまんないんじゃないかとおっしゃいましたけども、あの辺の駐車場はやめて、あそこは地域の地ビールの大ビアホールか何かにして、24時間営業して、終電まで飲んでくださいと、終電から飲み始めて一番電車で帰ってくださいぐらいの営業をやれば人は集まってくるだろうというふうな気がするんです。そういうふうに人々が集まるような可能性のある事業

を起こしていって、人を集めて、それでほかに類を見ないような新しい機能を持った市庁舎を例えば先ほど市の中心とおっしゃいましたけども、たまたま長岡駅の前が市の中心であるならば、そこに市庁舎をつくっちゃおうということも可能だろうというふうな気がするんです。すると、県庁と市庁舎があって、二つの大きな行政の力がそこに存在すると。これも長岡地域の新しい新市としては、イメージづくりうまくいくだろうというふうな気がするんです。これは、長岡市お金出す必要ないわけですから、そんなことも実は個人的には考えております。何か少しダイナミックな展開というのも、これからは必要になってくるんじゃないかという気はちょっとしております。

ある方がここの市役所の建物もったいないじゃないかとおっしゃるから、これは幾らでも使い道があるんです。先ほどお墓の話がありましたけども、東山に今墓地を開発していますが、自然を破壊するのやめちゃおうと。これは市民の山、東山ですから、お墓はつくらない。大変僭越で申しわけないですが、怒られるかもしれませんけども、この市役所の建物を納骨堂にさせていただいて、お骨を一つ５万円でお預かりします。そのかわり法事も全部いたします。10万体入ると50億です、保管料が。それで、ちょうど真ん中のホールのところに仏像をつくらせていただいて、それで長岡市のお寺さんで協同組合をつくっていただいて、そこに全部やっていただくと。お寺さんもちゃんと儲かるようにしなきゃいけませんから、やっていただくと。そうすると、お骨が入っているわけですから、そう危険性はないと思うんですけども、駐車場もありますし、食堂もありますから、何か立派な法事もできるんでないかという気は私個人の夢です。そんなふうなことを考えておりまして、何かほかにないようなことを一つしでかすのもおもしろいんじゃないかと。ある人から言わせれば、おまえ、何考えているんだと、こう言われるかもしれませんけども、そのぐらいのやっぱり可能性を秘めた夢を語り合っていくのがこの市町村合併の一つの楽しみではないかというふうな気もちょっとしております。余り委員長がしゃべっちゃいけませんので、どうぞよろしく。

はい。

◎委員（山本俊一）

スケールの大きい話からちょっと現実的に戻って恐縮なんですけども、私はやはりこの地域に、簡単ではないんですけれども、やはりきちっとした製造業、産業がなければだめだろうと。やはり産業のきちっとしたものがあれば、今まで私どもは人材供給基地みたいなもんで、子供たちを大学まで上げて、就職の場所がない。みんな東京の方に、関東、関西圏に出ていくという状況だったわけですけれども、やはりその子供たちがここに定着できて、ここに住めるというふうな形になると、かなりまたいろんな形で家庭の中でも３世代とか何か同居というふうな形にもなりますし、実際にアンケート調査しますと、子供たちのあいさつがきちっとできるのは３世代同居の子供たちができるんです。ところが、若い夫婦だけで、全部じゃないですけれども、傾向としては若い世代の子供たちはあいさつもできていないというふうな状況もありますし、そういった意味からすればやはりきちっとした企業、思い切った施策をとって、そういうふうなものをぜひやって、この地域に子供たちが残れるように、それからよそからも子

供たちが、優秀な従業員がみんな来るわけですので、そういったことで人との交流もなされてかなり活発化できてくるんではないかというふうなことと、それから先ほども話ありましたけれども、やはり二澤助役さんの子育ての日本一というのは私それ大賛成です。非常にいいと思うんですけれども、それともう一方でそれほど今みたいに高齢者に金をいっぱいかけるのではなくて、高齢者60歳からまだ25年ぐらい余力もあるわけですので、それが生き生きしないと医療費の増ばかりになるわけですので、高齢者をどうやって生かすかと。極力ボランティアばかりずっとやれといったって、なかなか無理ですので、それ以外にボランティア、それから興味を持っている方々は非常にいるわけです。今日的にもいるわけですので、先ほどの大学の活用というふうなものもありますし、いろんな形の中で高齢者をどうやって生かすかというのを、子育てと高齢者を生き生きさせるというふうなものを組み合わせたような形の中でダイナミックに施策はとれないかというふうに思います。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

どうぞお願いします。

◎委員（佐々木保男）

中之島の佐々木ですけど、今の話とちょっと関連するんですけど、やはり30万都市というスケールメリットだけでは、ちょっと合併は何か焦点ぼけると思うんです。先ほども話ありましたように、同じ県内の政令指定都市になろうとしている新潟地域に張り合っても、これはスケールメリットで必ず負けるわけですから、やはりある程度特化した一つの理念といいますか、それには今の地場産業の再生じゃないんですけど、産学協働と、これいろいろ出ていると思うんですけど、長岡市には長岡技術科学大学ございますし、また高等専門学校、高専もございます。それから、先生のデザインの専門の長岡造形大学ございます。もともと長岡技術科学大学というのは産学協働という理念で設立されたわけでございますが、それがなかなか今までもいろいろそういった手を尽くされてきたと思うんですけど、地場産業振興にはなかなか生かし切れていない面が多々あったと思います。それはいろんな社会状況、経済状況、いろんな面があるかと思うんですけど、それを例えば新市になったらそういったのに産学協働を一層振興させて、特に一番今苦しんでいる製造業の中小企業というのは、そういった自前で研究開発するというような、そんな余裕なんてほとんどないわけでございまして、特にまた昨今いろいろＩＴ産業とか新規の産業が出てきました。そうした中でやはり大学のそういうノウハウというんですか、そういうのを地場産業に生かすように。その辺いきますと、パテントとかいろいろ問題あるかと思うんですけど、そういった面で長岡はそういった産学協働がすごいんだと。大学のそういうノウハウをみんな地場産業に生かしている。例えば繊維の問題にしても、先生のところの造形大学のそういったいろんな工業デザインからあるわけでございますんで、その辺を今度一段と新市になったら進めていく。さらに、欲を言えば、我々のところは農業なんですけど、例えばバイオの研究所を誘致するとか、これは国の機関、あるいはどっか大学の研究所とか、そういった面に力点を置くような市にしたらいかがかと思います。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。

お願いいたします。

◎委員（石黒貞夫）

越路の石黒といいます。いろいろお話を聞いておりまして、私もずっと似たようなことを頭に描いておったんですけど、まず多様性の中で働きやすいまちづくりをしたいということなんですが、働きやすいのかどうかわかりませんが、私から見れば働きづらいと、現状は。将来的にはそうあって欲しいんですが、今のところは働きづらい。これは、私の知人でも何人かがもう倒産の憂き目を見て、しかもそこに働く従業員が何百人と失業しているわけです。これを救済する措置というのが全くないと言ってもいいかと思うんです。そういう失業者の少ない、それこそ日本一の都市づくり、こういうことが先に進まないと、やはり安心して暮らせないし、安心して子育てもできないし、また今非常に共働きが多うございますけれども、これも皆収入が少ない。そのために共働きをし、自分で産んだ子供を人に預け、あるいは預けなければ、うちの年寄りに面倒見てもらう。年寄りは大変ですから、テレビに子守をさせるといったような状態が続いているのが現状であります。

特に私のところ、手前みそで申しわけございませんが、私の集落におきましては越路町でも南端で小千谷市と長岡市のちょうど谷間に存在しております。村のど真ん中を国道も走っております。県道も走っております。しかしながら、店屋というのが一軒もありません。そして、信号機も一つもありません。隣の集落90何戸、私のところが124戸なんですが、これもみんな信号もなければ、隣はもう国道も県道もないというようなところで、年寄りだけが残ってしまう。みんな若者は、長岡や越路町の来迎寺の中心部へみんな行ってしまう。そして、今まで農業を主体にしておったところですけれども、田んぼは何とか生産組合にお任せすることができるんですけれど、畑だけはどうにもならない。そして、年寄りが腰を曲げながら、鍬でもってやっている。耕運機さえもつかめない、年寄りたちもう腰が曲がって。そういう中でだんだんと高齢者が増えると、さらに休耕地といいますか、畑の休むところが多くなって、これをどうしたらいいんだろうということで私も役場の方でいろいろそれを話をするんですが、具体的な策はない。これがいわゆる果たしてバランスのあるまちづくりができるんだろうか。これは越路町に限ってですが、これが今度長岡市ということに、新市になりますと、これはもう越路だけの問題じゃない。小国町、あるいは山古志村、栃尾市といったような山間部の方々、これはもう相当な差が出てくるんじゃないか。それで、町民も地域住民の人たちは踏ん切りがつかないところが多々多くあるのが現状だと思います。

さらに、何とかひとつ企業を我が集落にと、こう思っても、今の段階では市街化調整区域とか、あるいは開発行為とか、あるいは農振法とか、三つの網が今までかかっていて全部だめだったんです。ところが、中心部に行ったりするというと、それは小千谷市はないわけですから、もう小千谷市の方はどんどん、どんどん企業でも何でも当時誘致できたんですが、今私どもは全くそれができない状態です。新

市になれば、そういうものも地方分権で新市の方に移管されるんではないかということで、ある程度はもう移管されているようなところもありますけれども、これは私が８年前に議会に初めて立ったとき集落の方は、おまえ、何もしなくたって、この市街化調整区域だけは外せと。その努力だけを、おまえ、すりゃ、それでもうやめてもらっていいからと。ところが、まだまだ今やめるところまでいっていないんですけども、私も70の年を迎えましたんで、医療費は、町の医療はただになりましたけれども、ますます高齢者がふえる中で、そういった各地域によってはハンディが余りにも多過ぎる。これは、果たしてバランスにつながるんだろうか。調和のとれた市になるんだろうかという懸念がなされるわけであります。そんなことで、これからできる新しい市長になったらということですが、そういった隅々までをも平等にできっこはなりませんけども、できませんけれども、できる限り目配りをするという、そういう姿勢というものがやっぱり大切じゃないか、そんなふうに思います。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。非常に貴重なご意見だったと思います。目配り、気配りというお言葉をいただきましたけども、やはりそういう総合的に全体を常に見ながらこの仕事を進めていくというのが大切だろうと思います。

どうぞ。

◎委員（野田幹男）

いろいろのご意見を伺ったわけでありますけれども、私はやはり真の合併というのは中央集権的に長岡へみんな集まるんではやはりいけない。それで、長岡を取り巻く７市町村、どこもみんな緑豊かなところがいっぱいあるわけで、あり余るぐらいあるわけです。ですから、やはりこの合併によって皆さんから今いろいろ声が出た地価の安いところをどう活用するか。団地しかり、あるいはまたいろいろの保養施設であろうと何であろうと、そういうものをやはり周辺地域と交流を密にしながら、この中心部の皆さんからそれぞれむしろ出向いてもらうような形にならないと交流人口は増やせない。あるいはまた、周辺地域でいろいろご心配があるように寂れていくんじゃないかと、こういうことになるわけでありますので、やはり合併してよかった、交流人口が増えたり、みんなが行き来して往来が密になったと、こういうことにするようなやはりイメージ、あるいはまたビジョンはビジョンとして、もう一歩進んでそういうものに取り組んでいただければありがたい。それで、先ほど委員長が言われましたドイツのバーデン・バーデンの温泉の源泉、これは小国の養楽館の温泉はバーデン・バーデンと一緒なんです。そういうことで、それらがやはり小国だけの人間で運営しているんでは大変だけれども、交流人口が増えて皆さんからおいでいただくようになれば、みんなかさ上げしていくわけですから、ぜひそういうような往来が盛んになるような、交流人口を密にできるようなものにひとつ持っていっていただきたいとお願い申し上げます。

◎委員長（豊口　協）

どうもありがとうございました。

どうぞ、時間がだんだん押してきておりますので。

はい、お願いします。

◎委員（二澤和夫）

今小国の方おっしゃいましたように、やっぱり私人口にこだわっているんですけれども、これから人口ふやすのは大変難しいと思うんです、正直言いまして。それで、交流人口をふやして活性化していくよりしようがないと思うんです。そのためには、やはり思い切って交通の便をよくするということはどうしても基盤整備として必要だろうと思うんですが、ただこのアンケート調査の結果を見ますと、道路についてはかなりもう満足度が高いというふうな結果が出ていますので、私はちょっと意外だと思っているんですけれども、特に雪国というふうなことを考慮いたしますと、高規格道路をきちっと整備して公共輸送機関を整備するというのは、やはりそうであれば医療の問題とか、いろいろな問題が解決できると思うんです。例えば10分なり15分で中心部に出られるという保証があれば、何もすぐ隣に医者がなくてもいいわけですので、そういうことを考えますと、あるいはこれから各地域、地域の特色を生かして30万都市をつくっていくということは、前提としては各地域に定住人口は移動してもらうと困るんですけれども、交流人口を盛んにするためにはやはり交通の便を思い切ってよくすると。そのために高規格道路をもう少し整備する必要があるだろうというふうに考えておりまして、そういったようなことを施策の中でぜひ取り上げていただきたいというふうなことを感じます。そうであれば、長岡の中心部で夜遊びしたって帰れるわけですので、交流人口をふやすということはやはり交通の便を思い切ってよくすることが私はキーではないのかなというふうな気がいたしております。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。

どうぞお願いします。

◎委員（北村　公）

もう一つ、安全、安心なまちというので、これはいろいろな面で安全、安心なまちと言えるんでしょうけども、やはり防災能力の高いまちというか、万が一ということを考えた場合には、これから将来どういうことが起きるかわかんないというときに、これだけの将来30万都市になればそれなりの能力も出てくるわけですので、やはり万が一の対外的なこととか、失礼な言い方ですけど、刈羽の原発の問題とか、そういうとき、万が一のときに防災に強いまちはやはりつくっていただきたいですし、また個々にやはり果たす役割も、また例えば栃尾市は東山の山で囲まれていますので、何かあっても栃尾市の方へ逃げてくれば、何とか収容施設でもつくれば非常にお互いにそういう特性を生かしたことも考えていかなきゃだめかなというふうに思うわけです。

◎委員長（豊口　協）

北村委員のご発言で、ライフラインというのが今問題になっているわけです。今までつくられた過密

都市の場合のライフラインというのは実は余り十分ではない。それをもう一度基本的にやり直さなきゃいけないという事態が起きているわけです。特に今東京なんかで神戸規模の地震が起きたときにどうなるかということは、想像もつかないぐらい壊滅的な打撃を受けるだろう。そうしますと、長岡地域というのは、これからとにかくライフラインがパーフェクトだよと。どんなことが起きても、とにかく生きていくためのインフラというものはちゃんとできているんだというふうなことが行政の力によって行われる。それを我々も協力してやる。それが一つの基盤整備になるかもしれないです。ライフラインがちゃんとでき上がるということは、工場誘致もできるし、住宅誘致もできるし、病院なりなんなり、高齢者の対応施設でも、国際的な機能を持った企業も誘致できるということで、それがまず一つの先決だろうというふうな気もちょっとしているんです。この地域をずっと歩いてみますと、その事業をやるための要するに可能性がいっぱいまだ残されているというふうな気がいたします。ぜひともそれは市長になったらやりたいなと、こう思っていますが。

どうぞほかにございませんか。

お願いいたします。

◎委員（長谷川　孝）

小国町の長谷川でございます。先ほど二澤助役さんがいわゆるインフラの整備、それには高規格道路を挙げておられました。長岡市の八つの市町村、この中で長岡市と国境を接していないのは小国町だけなんです。あとの皆さん方は国境を接して、関所を通ってこちらにおいでになるでしょうけど、私どもは越路町を通ってこなければ長岡へ出てこれないんです。そして、長岡に出てくる道というのは国道の404、１本だけです。これは柏崎の方に行きます、出るには。これは国道、県道。小千谷に行きますにも国道、県道、そのほかけもの道までありますけど、長岡に来るにはけもの道もないんです。ですから、それが大きなネックになっておることは事実です。先ほど来越路の委員の方々からお話ございましたが、いわゆる典型的な中山間地帯です。雪もかなり降ります。雪が降れば、当然アクセスする場合には右折をしなければいかんわけですので、ほかの地域の皆様には申しわけないんだが、小国と長岡までトンネルつくっていただきたいと思います、高規格トンネル。そうしますと、これはシェルターになると思うんです。例えば栃尾の委員さんがおっしゃったように神話であった、安全神話の原子力発電所さえ事故が起きないとは限りませんので、せめて小国と長岡中心の間に高規格トンネルつくって、それを万一災害の場合にはシェルターにすれば、これは30万人ぐらい楽に入ります。

それで、小国町は、ここに野田委員長もおりますが、東京都の武蔵野市との友好関係を10年ほど結んでおります。武蔵野の市長さんがいつも言うんです。もし仮に東京で関東大震災並みの地震があったら、私たちは小国から水とお米をちょうだいします。そのために交流を深めましょうと。これが都市と農村の共生する一つの大きなポイントではないかと思うんです。私どもはいわゆる弱小町村ですから、いわゆる武蔵野市の文化に触れ、そして武蔵野市民の方々は小国のいわゆる自然、田植えツアー、稲刈りツアー、それから冬の雪祭りツアーに市民がバス１台で毎年行ったり来たりしております。子供たちの体

験交流もかつてやっておったんですが、いろいろなアクシデントがあって、子供たちの交流はここ二、三年途絶えておりますが、まず子供たちの交流を始めて、それが世代をだんだん経るにしたがって大人の交流が盛んになると。それには、まず子供たちの交流がこれ必要ではないかと思うんです。ですから、仮に新市の構想の中にいわゆる長岡市の子供たちと、どこの地域よろしいですが、沖縄でもハワイでもいいですけど、子供たちの交流をまずやることが先ほど二澤助役さんもおっしゃったように交流人口を増やすのではないか、そんなふうに考えております。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

大変ユニークなご発言ありがとうございました。ぜひとも実現したいという気もいたします。

ほかにございませんか。私この地域はすごく貴重なところだと思うんですけども、東京で育った子供で、生まれてから死ぬまでに地面を足の裏で踏んだことがなくて死んでいく人がいるんです。要するに高層マンションで生まれて、靴を履かされて、鉄板の車で移動し、鉄板の電車で移動し、そしてまた鉄筋の建物に入り、それを行き来して、それで最後終わっちゃうわけです。一度も大地に足を触れたことがないという人がたくさんいるんです。やはり大地に足が着いたときというのは、これ必要なことですから、実際肌で触れたときの感触というのは、恐らくもし初めて子供が触れたときには大変な感動を覚えると思うんです。そういうことが可能なところですから、私は今子供の交流ということを盛んにおっしゃっていますけど、これはものすごく可能性があると思います。非常に大きな意味を持っていると思います。

ほかに何かございませんか。

どうぞお願いいたします。

◎委員（熊倉幸男）

何でも結構でございましょうか。実は、この地域に日本一のガス田がございます。出るところと名前のあれがちょっと違うんですが、南長岡ガス田というふうに呼んでおりますけれども、このガスのクリーンエネルギーを使った何か長岡市の将来イメージといいますか、そういうものを皆さんの中で何かいい知恵があったらお聞かせいただきたいと思うんですが、先ほどもさっきの新市イメージのところに多様性とかという話もございましたけれども、その中に多様な産業が存在しているというようなことでございますし、先ほども製造業が欲しいとかという話がございましたが、例えばそういうクリーンエネルギーを使った産業のまちといいますか、そういうような何か考えてはどうかというふうに思っております。というのは、例えば今でも工場であるとか、あるいは公共施設あたりでも天然ガス等を使ったコージェネレーションといいますか、熱電併用というふうに訳すのですが、ガスを燃やしてタービンを回して電気をつくり、そしてまたその熱源でもって冷暖房、そういうものをやるというようなことでございますので、例えば長岡地域のそういう工場とか、あるいは公共施設あたりに率先してコージェネレーションというか、そういうものを実施しておるということはどういうもんかというふうに考えているんで

すが。

◎委員長（豊口　協）

産業振興で新しい、先ほど申し上げましたけども、本当に無公害、それから産業廃棄物を出さない新しい企業というものを、ちょっと私も今具体的に出てこないんですけども、そういうものが中心になった産業都市ができたらすばらしいと思うんです。その一つはやっぱりアグリカルチャー、農業だと思うんです。農業の新しいあり方というのは、もっと真剣に今度新しい新市で考えなくちゃいけないことだろう。やっぱりこれ文化ですから、カルチャーといっていますから。そういうものをベースにした新しいまちづくりをやることによって、本当にまた新しいイメージを持った文化がこの地から発祥していくと、その文化創造の地域としての機能も持たなくちゃいけないというふうな気はしているんです。ですから、可能性がものすごくあるというふうに私は思いますし、いよいよおもしろい時代が始まったなという気もしているんです。お金が今あちこち足りないところがちょっと玉にきずなんですけども、お金なんて私は印刷すりゃ幾らでもできるんじゃないかと思っているんですが、そうはいかないらしいんですけども、とにかく知恵と、それから人のふんどしで何か具体的なものをつくっていくという作戦を皆さんの知恵でつくっていくと、おもしろいまちづくりができるんじゃないかという気が私はちょっとしております。

今までずっと議論していただきましたＷＩＬＬとか、ＷＡＮＴとか、ＣＡＮという言葉、キーワードにして、特にこだわりませんけれども、そういう一つのベースにあったものに対していろいろとご発言をいただいたと思います。今のトンネルなんかは僕はものすごくいいなと思いまして、日本はトンネルづくりの名人ですから、何かすごく安く早くできちゃうんじゃないかという気もしないでもないですけども、というのは山古志村で昔手掘りでもって隧道をおつくりになったわけです。これなんか精神構造からいったらすばらしいことです。要するに国の補助なんか要らない。県の補助も要らない。我々の自分たちが生きていく隧道は自分たちでつくるんだといって、16年もかかって手掘りで隧道つくられたというのは、これはすごいことだと思います。そういう精神構造はこの地域にあるんですから、やはり新しい８市町村合併された新市というのはそういう心意気の中でつくっていけば、ほかに類を見ないまちができるんじゃないかという気は私はしております。また、できるだろうと思っていますし、やらなきゃいけないだろうというふうな気もしているんです。

今日非常にすばらしいご意見をたくさんいただきました。今日いただきました意見をまた整理をしていただきまして、事務局で総合的な新市のブランディング案をもう一度整理をしていただいて、それをさらにご意見をまとめながら具体化を図っていくということになるだろうと思いますけれども、少し時間が残されておりますが、ここは一言というふうなお方がありましたらご発言をいただきたいと思うんですけど、ございませんか。

はい、お願いいたします。

◎委員（北村　公）

これは新市の将来構想とは別なんですけれども、先年拠点都市に長岡が指定されまして、自分たちも今から８年ぐらい前ですけども、青年会議所へ入っていて、いろいろな団体と交流をしたわけです。交流人口拡大の実験をしたみたいなもんで、我々がその当時やったのは、まずできることからということで、長岡まつりにみんなで参加しようと。それで、我々栃尾はほだれ様のみこしを持っていったり、または中之島さんも凧を持っていったりとか、それでいろいろといい交流はできたわけです。やはりお互いの地域を知るというのはその辺から始まるんじゃないかと。我々も中之島さんのお祭りにお邪魔したり、またはあの当時出雲崎の方にもお邪魔したり、三島にもお邪魔したり、山古志さんの高石ともやとのマラソンか何かにも行ったり、そういういろいろ交流をさせていただきました。やっぱり交流人口を拡大するには、我々の８市町村がある程度やっぱりまとまってやっていかないと、対外的な面でも力を取るぞというような感じを受けたわけです。その当時あれだったんですけど、長岡はやはり中心でしたので、長岡はかなり積極的に我々をお誘いいただいたんですけども、なかなか長岡の人は、別にここにおられる方が悪いというわけじゃないんですけども、あの当時は一市民レベルの活動だったんですけども、長岡の方が割合他市町村のことを意外と知らないというようなところを僕は感じました。やはりその辺は私だけが感じたのかもしれませんが、これからせっかく交流から連携して合併にいこうというときですので、ぜひその辺の交流人口を拡大するという意味もありますし、緩やかな交流を少しずつこの機会にやっていったらどうかと。例えば各地のお祭りがあったときにお誘いをかけるとか、そういうところからやっていかないと、他地域のよさがわかっていかないような気がするんです。

以上です。

◎委員長（豊口　協）

ありがとうございました。これからはそれぞれの地域の文化的な遺産とか、それから歴史的なものというのは、これは共通の財産になるわけですから、お互いにやはり大切にしていかなくちゃいけないだろうという気がします。

ほかにございませんか。よろしいですか。

「なし」という声あり

◎委員長（豊口　協）

それじゃ、あとちょっと時間を残しておりますけれども、次回にまたいろいろとご意見をいただくということにいたしまして事務局にお返しをいたしますが、よろしいでしょうか。

「異議なし」という声あり

◎事務局（高橋）

事務局の方から少し連絡させていただきます。

次回の小委員会の日程でございますが、６月25日、水曜日でございます。時間は、いつもの時間に戻りまして18時30分、夕方の６時30分からということで予定をさせていただいております。正式には、またご案内を差し上げる予定でございます。それから、６月の25日ですが、先ほど委員長の方からも話が

ありましたが、今日委員さんの方からかなり多くの意見をいただきましたので、これらのものを今日整理して事務局がお示ししたものに皆さんからいただいたものをさらに加味しまして、ある程度の形にしたものを25日にはまたお示しをさせていただいて意見を伺うというようなつもりでおりますので、よろしくお願いをいたします。

午後５時４６分終了